

教科と「総合的な学習の時間」の関連を図った教育課程の編成

- 資質・能力に着目した関連を目指して -

共同研究校との指導主事研究 教育課程研究会議

葉倉朋子¹ 小池優一² 白井 理³ 行川博幸⁴ 前島和樹⁵
吉田和江⁶ 大平眞史⁷ 河野勝彦⁸ 佐藤裕之⁹ 篠原 満¹⁰
鉄指美登利¹¹ 山田義弥¹²

要 約

2002年度から新学習指導要領が全面実施される。今回の改訂の趣旨の大きな柱は、「生きる力」の育成である。そこで、教科の基礎・基本の充実とともに、創設された「総合的な学習の時間」の意味は大きい。しかし、教科の時間削減等による「学力低下」を危惧する声や、今回の改訂で創設された「総合的な学習の時間」が「生きて働く確かな力」を身に付けていくためにはどのようにしたらよいのだろうか、との不安の声もある。

本研究会議では教科と「総合的な学習の時間」の関連を密接に図ることにより、相互の力の育成につながるのではないかと考えた。特に、資質・能力の関連が重要であると考え、平成12年度に取り組んだ「総合的な学習の時間で培う力」の研究成果を出発点とし、「総合的な学習の時間」の資質・能力とその基盤になる各教科等の資質・能力の分析を行った。さらに、小学校、中学校の共同研究校の実践をもとに、資質・能力の関連を図った単元のモデルプランや年間計画、教育課程編成の手順を作成した。

キーワード：生きる力、総合的な学習の時間、各教科等、資質・能力の関連

目 次

主題設定の理由	22	4. 資質・能力を「どのように」関連させるか	30
研究の内容	22	(1) 関連のタイプ	30
1. 関連の種類	22	(2) A 小学校を基にした資質・能力の関連を図った年間計画のモデルプラン	32
2. 資質・能力の関連の必要性	23	5. 「総合的な学習の時間」に関連させた各教科等の特性	33
3. 資質・能力の「何」を、「いつ」関連させるか	24	6. 資質・能力に着目した「新教育課程の編成」の手順	34
(1) 「総合的な学習の時間」で育成する資質・能力の分析	24	研究のまとめ	36
(2) 「総合的な学習の時間」の基盤となる各教科等の資質・能力の分析	25	参考文献	37
(3) A 小学校・B 中学校の「総合的な学習の時間」の実践がめざすもの	30	指導助言者	37

¹ 教科教育研究室（指導主事） ^{2 3 4 5 6} 教科教育研究室（研修指導主事）
^{7 8 9 10 11} 教育課題研究室（研修指導主事） ¹² 生涯学習研究室（研修指導主事）

こうした各教科等で生まれた学習課題や学習内容と関連を図ることで、各教科等と「総合的な学習の時間」の両者が充実したという実践は多い。学習課題や学習内容についての関連は、学習活動がイメージしやすく、計画の段階で意図的な関連が図りやすいといえる。

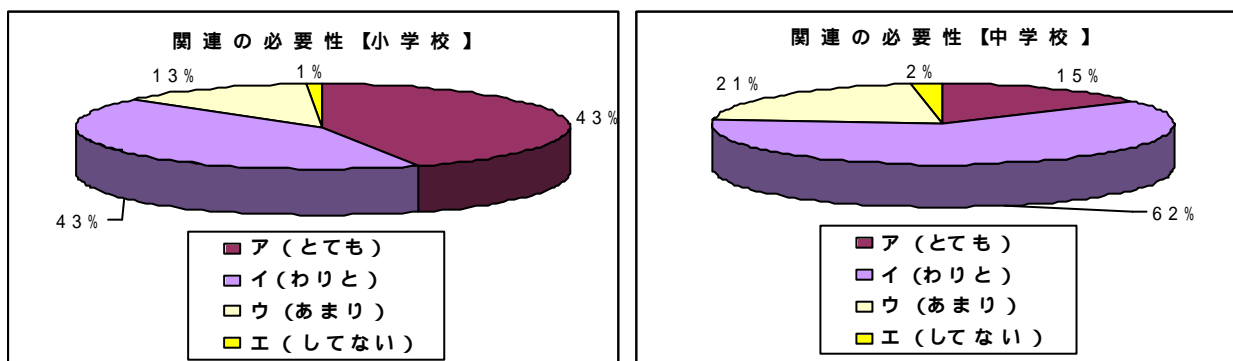
しかし、の資質・能力の関連については実践例が少ない。

本来、「総合的な学習の時間」は、各教科等で育成した資質・能力が実際の場で生きてはたらく体験をすることで、実践的な資質・能力を育てることをねらいとして創設されたはずである。そこでは、各教科等で育成した資質・能力の関連こそが最も大切に考えられなくてはならないのではないだろうか。

2 資質・能力の関連の必要性

2001年7月に、当センターでは川崎市内全小学校114校、全中学校51校に「教科と『総合的な学習の時間』の関連についての意識調査」を行った。調査対象は、研究主任、または教務主任である。

＜教科と「総合的な学習の時間」の資質・能力を
関連させることについて＞



この結果、資質・能力の関連の必要性について、小学校では「とても感じている」「わりと感じている」を合わせて約86%、中学校においても77%が、関連の必要性を感じていることが分かる。

しかし自由記述形式で尋ねた「関連させる上での課題」の回答には、次のことがあげられている。

小学校

- ・教科と「総合的な学習の時間」のねらいや資質・能力をどのように関連付けるかが難しい。
- ・関連を無理に意識せず、自然の流れでよいのではないか。教科で育成した資質・能力が実際の場で発揮されると考える。
- ・教科と「総合的な学習の時間」で育成する資質・能力の分析なしに、関連の具体化は難しい。

中学校

- ・単元や内容が幅広いので、具体的な結び付きがはっきりしない。
- ・関連が一つの教科とは限らないので分かりにくい。
- ・「総合的な学習の時間」の展開と関連教科、単元履修のタイミングにずれがある。

これらのことから、関連の必要性は感じているが、何を、いつ、どのように関連させるかという点で迷っていることがうかがえる。それは、資質・能力を関連させた学習活動が具体的にイメージできないために、育成した資質・能力の関連がとらえにくいということに原因があると思われる。

3 資質・能力の「何」を、「いつ」関連させるか

(1) 「総合的な学習の時間」で育成する資質・能力の分析

そこで、本研究会議では、平成12年度に取り組んだ『総合的な学習の時間』で培う力」の研究の成果を出発点として、「総合的な学習の時間」で培う力と教科で培う力の「何を」関連させたらよいかについて、明らかにしたいと考えた。(以下、前年度用いた「培う力」を今年度は「資質・能力」と表す)

前次研究において、本研究会議では「総合的な学習の時間」で育成する資質・能力に焦点を当てた研究を行った。

そこでは、「総合的な学習の時間」で育成する資質・能力の中核となる柱を「問題解決の能力」に置き、それを支える力として「学び方やものの考え方」、「主体的・創造的な態度」の2つを位置付けた。子どもたちは、「総合的な学習の時間」での学習を通して、繰り返しこれらの資質・能力や態度をはぐくみ、次第に自己の生き方についても考えられるようになり、「生きる力」を身に付けていくと考えた。

そして、「総合的な学習の時間」で育成する資質・能力の中核となる「問題解決の能力」とそれを支える「学び方やものの考え方」「主体的・創造的な態度」の3本の柱のそれぞれについて、その力の要素を検討し、表-1のように整理した。

<育成する資質・能力とそれを支える要素> (表-1)

学び方や ものの考え方	問題解決の能力	主体的・ 創造的な態度
情報の集め方 調べ方 まとめ方 報告の仕方 発表の仕方 討論の仕方 多角的なものの考え方 総合的なものの考え方 共感的なものの考え方	課題を発見する力 観察力 構想力 情報活用力 思考力 判断力 表現力 自己評価力	知的な好奇心 探究心 意欲 自分のよさに気付く 自分に自信をもつ 自己を振り返る態度

さらに、それらの要素が主に学習過程のどの部分において育つのか、「学習過程と育成する資質・能力の要素」を表-2のようにまとめてみた。

<学習過程と育成する資質・能力の要素> (表 - 2)

学習過程 資質・能力	課題を発見する	課題を追究する	まとめる
問題解決の能力	課題を発見する力 観察力 情報活用力 (情報を収集する力) 構想力 (企画力) 判断力 自己評価力	情報活用力 (情報を収集する力) (情報を整理する力) 観察力 構想力 (企画力) (選別力) 思考力 (論議する力) (議論する力) (懸念する力) 判断力 自己評価力	情報活用力 (情報を整理する力) (情報を活用する力) 表現力 自己評価力
学び方やものの考え方	情報の集め方	情報の集め方 調べ方 報告の仕方 討論の仕方 多角的なものの考え方 総合的なものの考え方 共感的なものの考え方	まとめ方 発表の仕方 多角的なものの考え方 総合的なものの考え方 共感的なものの考え方
主体的・創造的な態度	意欲 知的好奇心	意欲 知的好奇心 探究心 自分のよさに気付く 自分に自信をもつ	意欲 知的好奇心 自分のよさに気付く 自分に自信をもつ 自己を振り返る態度

各教科等と「総合的な学習の時間」で育成する資質・能力との関連を図る前に、「総合的な学習の時間」の基盤となっている各教科等のそれぞれの学年で育成する資質・能力を明確にすることが必要になる。

そこで、今年度は「総合的な学習の時間」で育成する資質・能力の要素のいくつかについて、各教科等の資質・能力を学年ごとに関連させた表を作成した。つまり、「総合的な学習の時間」で育成する資質・能力と教科で育成する資質・能力の関連の案である。

(2)「総合的な学習の時間」の基盤となる各教科等の資質・能力の分析

次に、具体的な学習を通して、それぞれの力を「いつ」関連させるかについても考察を試みた。

本研究会議の共同研究校であるA小学校5学年の「総合的な学習の時間」の単元「多摩川と遊ぼう」とB中学校2学年の「多摩川を中心として」の実践を例に考えてみる。

< A 小学校の「総合的な学習の時間」をもとにしたモデルプラン >

5 学年 「多摩川と遊ぼう」(4 5 時間)

単元目標 地域を流れる川である多摩川での体験を通して、様々な人とかかわりながら、自分の課題を追究することのおもしろさを味わう。環境についての意識を深めたり、視点を広げたりしながら、自ら地域にかかわっていく子どもを育てる。

その活動を支えるものとして育成したい資質・能力の要素

- ・ 発見する力 課題を発見する力
- ・ 追究する力 情報を収集する力
関連付ける力
- ・ まとめる力 情報を発信する力
自己を振り返る態度

この目標を受けて、指導計画を作成し、この単元での育成したい資質・能力と各教科等で育成したい資質・能力の関連を位置付けた。

	学 習 活 動	資質・能力の要素	各教科等	関連する資質・能力の要素
課題発見	多摩川と遊ぼう (2)			
	河原で遊ぶ 浅瀬に入って遊ぶ 川のようにすや近くにいる人を見る			
	みつけた「？」を发表しよう (1)	課題を発見する力	体 育	・自分を振り返りながら課題を発見する力
・川が曲がって流れていた ・川の水は思ったよりきれいだった ・おじいちゃんは昔、多摩川で泳いだらしい ・渡し船があったって本当かな ・つりをしている人がたくさんいた ・場所によって川の水の音は違うのか ・たくさんの鳥がいたよ など	道 徳		・自然の偉大さを知り、自然環境を大切にす態度	
調べてみたいことをみつけよう (6)	社 会		・社会事象を調査・観察する力	
	・多摩川のいきものはカニの他に何がいるのか ・昔の多摩川はどうだったのか ・多摩川はどんな役にたっているのか	理 科	・比較しながら問題を見だし、相違点や共通点をとらえる力	

課題追究	<ul style="list-style-type: none"> ・多摩川の水の速さはどのくらいなのか ・橋はいつ頃できたのか ・多摩川のごみは誰が片付けるのか など 	情報を収集する力	国語	<ul style="list-style-type: none"> ・話の要点をメモを取りながら聞く力 ・自分の目的に応じて、中心となる語や句をとらえて、文章の内容を正しく読む力
	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">調べて見よう (20)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・多摩川で生き物を見つけよう ・上流と下流の様子を調べよう ・多摩川の利用について町の人に聞こう ・昔の多摩川の様子を区役所に聞きにいこう ・図書館で橋のことを調べよう ・水の汚れを実際に調べよう ・上流や下流付近の学校からインターネットで情報を得よう など 	関連付ける力	社会 理科 社会 算数 家庭 理科	<ul style="list-style-type: none"> ・社会事象を的確に観察・調査し、地図や具体的な資料を効果的に活用する力 ・定期的に観察し、記録する力 ・産業と自然環境との関連を考える力 ・一つの観点に着目して分類する力 ・家庭生活と自然環境の関連を考える力 ・事象と変化との関係する要因をとらえる力
まとめ・表現	<p style="border: 1px solid black; padding: 2px;">伝え合おう (16)</p> <ul style="list-style-type: none"> 調べたことをまとめる 調べたことを友達と伝え合う 地域のたくさんの人に伝える 学習発表会で他学年や保護者に伝える 自分の学び方や見方、考え方を見つめ直そう <ul style="list-style-type: none"> ・多摩川が地域の人たちのくらしに役立っていることを伝えるために、ポスターづくりをしよう ・昔の多摩川がどう変わってきたのかを紙芝居で伝えよう ・多摩川の生物や水の大切さを劇にして、他の学年にもわかってもらおう など 	情報を発信する力	国語 社会 音楽 図工 特別活動 体育 家庭	<ul style="list-style-type: none"> ・資料を使って調べ自分の立場でまとめる力 ・発表や報告に必要な資料を提示して説明する力 ・調べた結果や過程を目的に応じた方法で表現する力 ・自由な発想で音を選び、変化や様子などを表現する力 ・構成の美しさや面白さを構想する力 ・友達の発表を聞きながら、集団に協力し、自分の役割を果たそうとする態度 ・自分の表現を振り返ろうとする態度 ・生活を見直す力
		自己を振り返る態度		

< B 中学校の「総合的な学習の時間」をもとにしたモデルプラン >

「水と人間のかかわり」～ 多摩川を中心として ～

* 1年で、多摩川河口域について学習し、3年では、多摩川や環境に関する事で、個人テーマを設定し学習活動する3年間を見通した総合的な学習計画

2 学年 「多摩川上流域の学習」

単元目標 多摩川上流域の自然環境や人間と自然のかかわり、下流域とのかかわり、人々の営みや歴史などから新たな課題を発見し追究することによって、身近な河川である多摩川や地域に、さらに関心をもち、自らかかわっていく子どもを育てる。

その活動を支えるものとして育成したい資質・能力の要素

- ・ 課題を発見する力
- ・ 情報を収集する力・選択する力・発信する力
- ・ 関係付ける力、自己を振り返る態度

これらを基にして、指導計画を作成し、教科で育成する資質・能力との関連を位置付ける。

	学 習 活 動 と 場 面	資質・能力の要素	各教科等	関連する資質・能力の要素
課 題 発 見	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">二子多摩川付近の自然環境，社会環境の観察，調査をする</div>	情報を収集する力	社 会	・観察や調査，地図や統計その他の資料の収集をする力 ・社会的事象に関する様々な資料を収集する力
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">多摩川上流との比較がしやすいように着眼点をもつための観察会を行う</div> <p>川の水の流れ 川の石に特徴（2） 橋の数や役割 河川敷にある施設の役割 古い碑や言い伝えられている話 等</p>		理 科	・観察，実験を通して，規則性を見出したり自らの考えを導き出したり創意ある発表や報告書の作成や発表を行う力
課 題 追 究	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">映像や地図等で上流域を調べる</div> <p>・大きな山，深い森が存在する（2） ・山の中に大きなダムが存在する ・谷に沿って川が流れている，道路もある ・石灰岩を採掘しているところもある ・キャンプ場や行楽の施設がある ・いくつかの学校がある ・大きな飛行場がある 等</p>	課題を発見する力	社 会	・年表や歴史地図，映像など様々な資料を収集する力
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">グループごとに課題設定をする</div> <p>・どんな民話があるか（5） ・上流域にはどんな植物があるのか。 ・川と人々の生活はどうかかわっているのか ・校歌の中に多摩川があるか ・奥多摩上流にはどんな魚や生物がいるのか 等</p>		体 育	・仲間と協力して資料を集める力
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px;">上流域の調査，観察をする</div> <p>・ダムの調査をする（8） ・上流の水を調査，魚やそこに生きる生物</p>	情報を選択する力	社 会	・自分の考えや気持ちを的確に表すために広い範囲から適切な材料を選ぶ力
			国 語	・目的に合った情報を適切に選択し活用する力 ・相手の立場や考え方を尊重し，目的や場所に応じて話したり聞き分ける力

(3) A小学校・B中学校の「総合的な学習の時間」の実践が指すもの

ここでは、「総合的な学習の時間」の学習活動を具体的に見ていきながら、その学習活動が、どのような資質・能力の育成をねらっているのか、さらに、その資質・能力は、各教科等で育成されたどのような資質・能力を土台にしているのかを考察する。

A小学校の実践例を例にとると、多摩川で遊んだ経験を基に、子ども達は見付けた「はてな」を発表し合う。発表し合うことで、視点を広げ課題づくりに入る。次に、それぞれが課題を見付けたら、追究の段階に入るが、ここでは、それぞれの課題について文献を調べたり、インタビューをしたり、実験で確かめたりしながら学習していく。学習の成果は、相互に交流し合うことで、より豊かなものになる。このように、自分の学習の結果をまとめていくわけだが、このA小学校の「総合的な学習の時間」が目指したものは何であろうか。

モデルプランの資質・能力の要素を見ていくと、「調べてみたいことをみつけよう」の学習活動では、「課題を発見する力」「情報を収集する力」を、「調べてみよう」の学習活動では「関連する力」を、「伝え合おう」の活動では、「情報を発信する力」の育成を図っている。「自己を振り返る力」については、学習のまとめはもちろんであるが、全学習過程において育成する資質・能力であろう。

ところで、このような資質・能力は、各教科等で育成したどのような資質・能力が土台となっているのであろうか。それを、関連する資質・能力の要素の欄に表した。

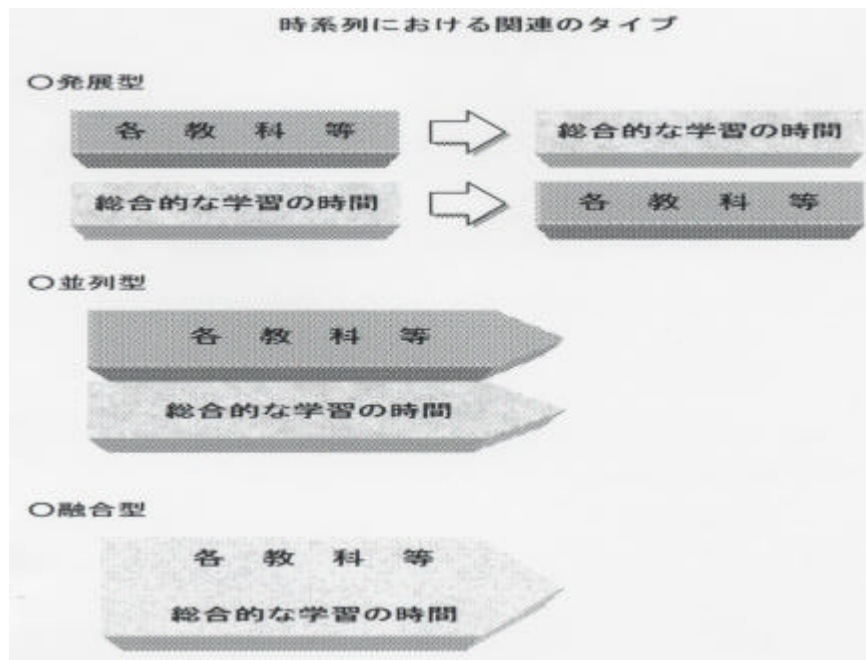
B中学校の実践例「多摩川上流域」の単元では、「総合的な学習の時間」で育成する資質・能力の要素を「情報を収集する力」「課題を発見する力」「情報を選択する力」「情報を関連付ける力」「情報を発信する力」「振り返る態度」としている。それを支える資質・能力としての各教科等で育成する資質・能力を関連する資質・能力の要素の欄に示している。

4 資質・能力を「どのように」関連させるか

(1) 関連のタイプ

実際に関連を図る際は、次のようなタイプに分けられる。

一つ目は、各教科等の学習課題や学習内容から発展して「総合的な学習の時間」へ、また、「総合的な学習の時間」の学習活動や学習内容が発展して各教科等へとつながるタイプである。また、二つ目は各教科等と「総合的な学習の時間」の学習内容が並行して進められるタイプである。さらに、三つ目は、各教科等と「総合的な学習の時間」の学習内容がほぼ同じであり、融合して行われていくタイプである。



これら3つのタイプは、主に学習課題や学習内容の関連で考えられるものである。各教科等と「総合的な学習の時間」の関連を計画する際には、どのタイプなのかを考慮に入れながら、資質・能力の関連を図っていく必要がある。

また、各学校においては、両者の資質・能力が有効にはたらくように年間計画に位置付けていくことが必要になる。A小学校の多摩川の実践の例は、各教科等から「総合的な学習の時間」へと発展型になっている。

(2) A小学校を基にした資質・能力の関連を図った年間計画のモデルプラン

< A小学校における 資質・能力の関連を図った年間計画 モデルプラン >

第5学年 / 2学期

	9 月	10 月	11 月	12 月
総合		多摩川と遊ぼう(45時間)		
		課題を発見する力	情報を収集する力	自己を振り返る態度
		↑	↑	↑
		↑	↑	↑
		↑	↑	↑
		↑	↑	↑
国語	あなたへ 新聞をもとに ・自分の考えを加えて話す力 一秒が一年をこわす・身近な環境 ・段落の要点や相互の関係を讀む力	漢語と和語 「わたしたちの意見」集 ・自分の意見を区別して書く力 大造じいさんとがん ・場面の移り変わりや気持ちの変化を讀み取る力	敬語 ・敬語接頭語、特別な言葉、です・ますを使った言い方の理解 みんなの読書生活 ・要旨の整った文章に表す力 熟語を使って ・必要な語を辞書を使って調べる力 文字の大きさ	その人と会って ・自分の知りたいことを資料を使って調べ、自分の立場でまとめる力 漢字の読み方と使い方 ・漢字の讀みに関心をもち、適切に使う力 言葉の組み立て ・合語の組み立て方の理解 字配り
書写	文字の組み立て方	筆使いと字形		
社会	工業生産を支える人々 ²² ・地図、統計資料を収集する力 ・多面的な見方	伝統工業 ・くらしとのつながりに気づく力	くらしを支える情報運輸 情報を伝える人々 ・産業の特徴を的確に見学し、調査する力	情報をしごとに役立てる人々 ・情報を判断、選択する力
算数	整数の性質 ・一つの観点に着目して分類する力	分数のたし算とひき算 ・既習の考え方をもとにして考える力	三角形や四角形の面積 ・既習の考え方に帰着させて考える力	わり算と分数 ・相互関係に着目して考える力
理科	秋の天気 ・変化とその要因の関係を見付ける力	月と太陽 ・変化と時間を関係付け、予想する力	おもりをあてた時 ・条件に着目して実験計画をすすめる力	もののとけ方 ・定量的に記録したり、表やグラフに表す力
音楽	たのしい響きを味わおう ・生活を明るく潤いのあるものにしよとす態度		様子を思い浮べて表現しよう ・自由な発想で音を選び、変化や様子を表現する力	
図工	2フェイス ・新たな発想を楽しむ力	広場でわたしは ・材料の特徴を感じ、発想する力	ファンタジーの世界へ ・自分らしい表現を構想する力	ただ今、建設中 ・材料の特徴をもとに、発想を広げる力
家庭	やってみよう、試してみよう ²² ・生活に生かす力	ミシンの使い方を知る ・目的に応じて考える力	おいしく食べることをみつけよう ・生活を見直す力	
体育	水泳・保健 陸上運動	器械運動	ボール運動	器械運動
		・自分を振り返り、課題を発見する力		
道徳	折り紙	地球を救おう子ども会議 ・自然の偉大さを知り、自然環境を大切にす態度	消え行く生き物	セロハンテープの発達 愛する奈々ちゃんへ
学活	クラスの係を決め学習計画をたてよう 意見聞きながら、集団に協力し、自分の役割を果たそうとする態度	友だちのよいところをさがそう	学習発表会の計画をたてよう	係活動、委員会を振り返って ・自分や集団を振り返ろうとする態度

5 「総合的な学習の時間」に関連させた各教科等の特性

各教科等と「総合的な学習の時間」で育成した資質・能力の関連を図る際に、一概に各教科等と「総合的な学習の時間」が同様の関連の仕方をするとはできないと考える。それは、各教科等の特性が存在するためである。ここでは、その各教科等の特性を明らかにしながら、資質・能力の関連の方向性を探ってみた。

関連が図りにくいといわれる算数・数学科

「総合的な学習の時間」の中で算数・数学科との関連が図りにくいという声をよく耳にする。これは、各教科等との関連を、学習内容や学習課題に着目しているためではないだろうか。確かに算数・数学科において、学習内容や学習課題の重なりは少ない。しかし、筋道を立てて考えるなど論理的な思考力や観点をもった分類方法など、資質・能力という意味での関連は「総合的な学習の時間」を成立させる重要な要素となる。

「総合的な学習の時間」の土台として働く国語科

また、国語科においては、教材関連に目がいきすぎていないだろうか。教材は、教科書の内容に左右されるといえる。相手意識や目的意識を明確にした「話す力・聞く力」「書く力」「読む力」等、国語科の資質・能力は、「総合的な学習の時間」の資質・能力の土台をなすものといえる。

中学校における外国語（英語）科も、外国の言語ということから国際理解の内容として扱われることが多いが、コミュニケーションの力の育成という点で、国語科と同様の資質・能力をもつと考える。

「総合的な学習の時間」の入り口になりやすい社会科や理科

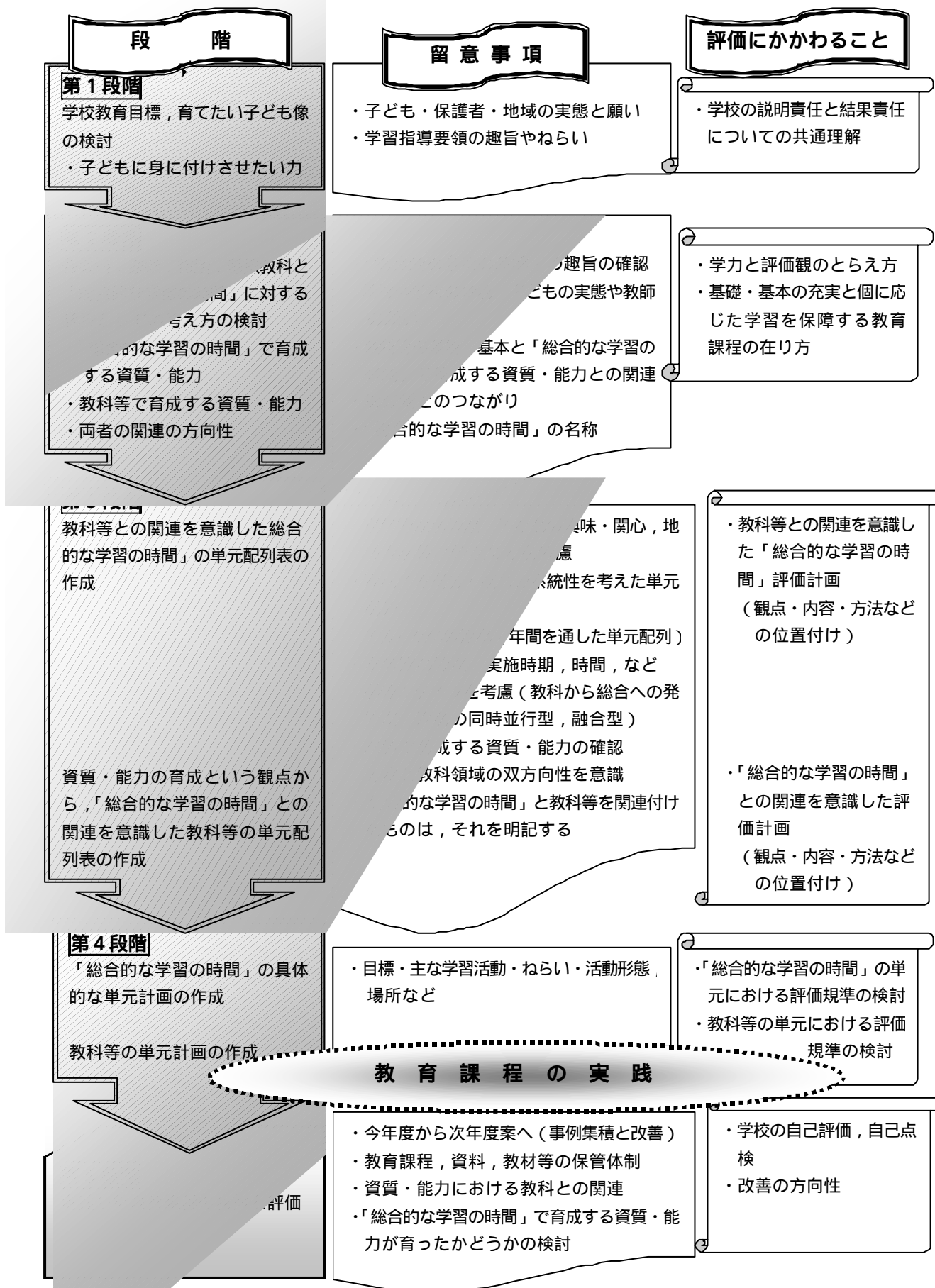
一方、比較的関連の多い社会科や理科であるが、現在、学習課題の関連が中心であるように思われる。社会科や理科の「地域」「川」「水」等の学習内容自体が、「総合的な学習の時間」の「環境」や「福祉」等のテーマの入り口になる。そのため、教科で育成した資質・能力の関連を忘れがちである。

技能の裏に資質・能力が隠れやすい教科

家庭、技術・家庭科においては、内容自体が関連の深いものであり、また、技能（技術）においても関連しやすいものであるといえる。例えば、生活に活用する資質・能力ととらえた時、それは、「総合的な学習の時間」の様々なところで生かすことができる。体育・保健体育科においては運動技能だけでなく、例えば、選択能力の育成があげられる。自分に合った学習課題を選んだり、そのための練習方法を選んだりする過程でその力が育成されるといえる。また、図画工作・美術科は、表現力や技能だけでなく、構想力の育成が大きい。音楽科についても同様で、とらえたイメージを表現する力などであろう。ポスターを描くから図工・美術科との関連、歌で表現するから音楽科との関連、というのではなく、その教科で育てた構想力や表現力を「総合的な学習の時間」で発揮するという関連をしていく必要がある。

道徳や特別活動においては、態度としての資質・能力の育成が大きい。また、行事等の内容的な事柄の関連が図られやすい特別活動では、特別活動本来のねらいである、自主的・実践的な態度や集団生活における自発的・自治的な実践力を関連させていくという考え方が大切になる。

以上で述べた各教科等の特性を考え合わせながら、「総合的な学習の時間」で育成する資質・能力と各教科等で育成する資質・能力の関連を図る必要があると考える。



現在、各学校で作成している教育課程に各教科等と「総合的な学習の時間」で育成する資質・能力を関連させていくために、本研究会議では教育課程の編成の手順について、以上のように考えた。

教育課程の編成を行っていく手順として、はじめに学校や地域、保護者の願いや子どもの実態を踏まえ各学校で教育目標を中心にしながら子ども像をイメージし、子どもに身につけさせたい力をとらえていく必要がある。次に、資質・能力の育成という観点から、段階を追った両者の関連の方向性を明確にし、それを具現化していく。段階を追って特色ある学校ごとの教育課程の編成を進め、1年間の最後には、実践した教育課程の検討と評価を行っていく。具体的には、各教科等や「総合的な学習の時間」で育成する資質・能力が育ったかどうかの検討や評価、さらに教育課程に関する資料・教材の保管を行っていくことが重要になる。これらが学校の自己点検、自己評価にもなり、次年度に向けた改善につながると考える。

7 研究のまとめ

「総合的な学習の時間」と各教科等を資質・能力の関連でとらえる場合、その二つは当然、自然に重なっていく部分がある。

しかし、教育が意図的、計画的に子どもの資質・能力の育成を目指すことを考えれば、両者の関連を明確にして指導に生かしていくことは、極めて重要である。より焦点化した両者の資質・能力を見ていくことによって、互いの基礎・基本も明らかになると考える。そのことにより、知の総合化といわれるように教科で育成した資質・能力が「総合的な学習の時間」の場で生き、また、教科の資質・能力もそれを通して向上すると考える。

研究協力校との実践を通して、関連を図っての具体的な成果と思われるものをいくつか紹介する。

【教科の力が総合的な学習の時間の力に育成につながったものとして】

A 小学校

- ・ 理科の学習で比較する力の育成に重点をおいた結果、「総合的な学習の時間」の中で川の上流と下流などの場所の違い、水の速さの違いといった比較の視点をもって追究する姿が見られた。

【総合的な学習の時間で育成した力が、教科の力の育成につながったものとして】

A 小学校

- ・ 「総合的な学習の時間」で問題をもつ力の育成を図った結果、社会科の調べ学習の中で、自分なりの観点をもって調べようとする力がついた。さらに、友達の調べた内容にも興味をもち、情報を得ようとする態度が出てきている。

B 中学校

- ・ 「総合的な学習の時間」に問題を発見する力の育成に重点をおいた結果、他教科で、今までと違う視点からの疑問や自分への振り返りを基にした具体的な疑問をもつようになった。

以上のことから、教科と「総合的な学習の時間」における資質・能力の関連を図っていくことで、少しずつではあるが、確実に相互の資質・能力の育成ができつつあると思われる。

一方、新たな課題として次のことがあげられる。

各教科等と「総合的な学習の時間」の関連を図っていく場合、各教科等のもつ系統性や、子どもの資質・能力の発達段階との調整をどう図っていくか。

学習活動が、それぞれの子どもによって違うことが多い「総合的な学習の時間」において、資質・能力の育ちをどう評価し、支援していくか。

同じ地域にある小学校・中学校において、同じように多摩川を教材とした時、育成したい資質・能力を軸にすると、それぞれの校種での活動内容や方法をどうするか。

教科と「総合的な学習の時間」を資質・能力の関連で捉える場合、両者は自然に重なってくる部分もあると考える。しかし、教育が意図的、計画的に子どもの資質・能力の育成を目指していくことを考えると、両者の関連を明確にして指導に生かしていくことは、極めて重要になる。総合的な学習の時間を構想する場合、総合的な学習の時間で育成する資質・能力を明確にするとともに、各教科等で育てるべき資質・能力を明確にしながら、それを総合的な学習の時間の活動とリンクさせる必要があるといえる。

このように、焦点化した資質・能力の関連を見ていくことで、各教科等で学んだ力が実際の中で生き、また、教科の資質・能力も向上するものとする。

学力低下について危惧する声もある中、いよいよ4月から新教育課程が実施される。まだまだ課題となることは山積しているが、今後、共同研究校との実践の中で、さらに具体的な力の育成を図りながら、川崎の子どもたちに確かな力をつけていくための研究を進めていきたいと考えている。

本研究を進めるにあたり、適切にご助言をいただきました先生方、研究を支えてくださいました共同研究校の校長先生はじめ諸先生方に、心より感謝申し上げます。

【参考文献】

- | | |
|---------------------------|---------|
| 日本教材文化研究財団『平成11年度研究紀要』 | 1999年3月 |
| 北俊夫『総合的な学習』とこれからの学校の授業づくり | 2000年3月 |
| 日本図書文化協会『指導と評価』 | 2000年5月 |

【指導助言者】

国立教育政策研究所基礎研究部総括研究官（川崎市総合教育センター専門員） 工藤文三

【共同研究校】

川崎市立高津小学校
川崎市立西高津中学校

【研究協力者】

川崎市立高津小学校教諭	穂苅ひと美
川崎市立西高津中学校教諭	竹澤 武
川崎市立西高津中学校教諭	堀米 達也